

令和7年度 第1回 宇都宮市総合教育会議 議事録

1 日時 令和7年9月22日（月） 午前11時～午前11時50分

2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室

3 出席者

（構成員）

佐藤市長

小堀教育長，大森委員，小野委員，亀山委員，山口委員

（事務局）

安納事務局長，川島事務局次長，鈴木総務担当主幹，

石和教育企画課長，岡村学校教育課長，山口学校健康課長，

塚田生涯学習課長

4 傍聴者 1名

5 議題 「教育で選ばれるまち宇都宮」の推進について

6 議事の内容

(1) 開会

安納事務局長

ただいまから，令和7年度第1回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。よろしくお願いいたします。

(2) あいさつ

安納事務局長

はじめに，佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

佐藤市長

佐藤市長あいさつ

安納事務局長

ありがとうございました。

続きまして，小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。

小堀教育長

小堀教育長あいさつ

安納事務局長

ありがとうございました。

ここからの議事の進行につきましては，市長にお願いしたいと思います。

佐藤市長，よろしくお願いいたします。

(3) 議事

佐藤市長

それでは，議事に入ります。

教育で選ばれるまち宇都宮の推進について事務局から説明をお願いいたします。

「教育で選ばれるまち宇都宮」の推進について事務局（教育企画課長）

説明

佐藤市長

それでは説明が終わりましたので，教育委員会の皆様からもそれぞれご意見を伺いたいと思います。

大森委員

私自身も仕事の都合で家族と共に，東京から宇都宮に引っ越しすること

となり、子ども達3人は宇都宮市で小・中・高と過ごすことができました。保育園児の頃には様々な国籍の友人達、そして、就学後には家庭環境や価値観の異なる友人達と過ごすことで、これからの時代に必要な多様性を受容し他者と協働する能力が自然と身についてきたように感じています。関わってくださった先生方も非常に熱心に接してくださいましたし、地域の方々に見守られながら過ごしている実感があります。

教育で選ばれるまちの推進にあたり、教育は生涯を通して教える、教えられるものであると思いますし、その内容もハード面ソフト面の両輪から推進されていくことが一層、望まれます。

今後、宇都宮市の教育の強みや特徴をさらに高めていくために必要なことは、どのような子どもを育もうとするのか。例えば多様性を受容し他者と協働する能力が備わった子ども等、そして、周囲がどのように子どもに寄り添い伴走することができるのか、そのビジョンを明確にする必要があると考えています。また、他市と差別化するために宇都宮市にしかないものを教育題材として取り上げる、例えば、ライトラインや大谷石を活用した教科横断的なSTEAM教育やプログラミング教育なども有効であると思います。さらには、放課後や長期休暇時には家庭環境による体験格差が大きくなることから、宇都宮市のステークホルダーが一体となった様々な体験活動の場の創出も期待されます。

今後も教育委員として教育で選ばれるまちの推進に尽力していきたいと考えています。

小野委員

自分自身東京出身で、社会人になってから宇都宮に移住しましたが、暮らしやすさや子育てしやすさを日々実感しており、子どもたちにも高校までは、市内の学校に通って欲しいと思っています。

東京近郊の子育て世帯にとって、宇都宮市の子育てしやすさと教育環境の充実度は魅力的に映り、さらには、東京圏の大学への新幹線の進学補助などの移住定住促進策も大きなアピールポイントであると思います。

教育で選ばれるまち宇都宮の推進に向けて、教育委員会としては、3つのACTIONを定めて本市教育の特色や強みをPR資料にまとめておりますが、広報宇都宮や教育委員会だよりという年1回の市内向けの広報媒体の活用では、まだまだ十分とはいえないと思います。

スポーツや文化のイベントなど、市民や来訪者の注目が集まる場での教育施策の紹介や、テレビCMなどの大規模プロモーションと合わせて発信していくことで、東京圏をはじめとする広域の子育て世帯に強く訴求できるものと考えられます。

そのような全市的なプロモーションを展開していくためには、市長事務局と一体的に連携していくことが不可欠であると思います。

大規模プロモーションのための予算組みなど、教育で選ばれるまち宇都宮実現のための効果的かつ積極的な広報戦略について議論を深めていきたいと考えます。

亀山委員

教育環境が整備され、子育て支援が充実し、子育てしやすいまちとして本市の教育への取り組みや、教育行政が全国的に高評価をいただいていることは、教育に携わる者として大変うれしく感じています。

教育を多角的視点から捉え、本市ではさらに教育で選ばれるまち 宇都宮を目指し、様々な特色ある取り組みも推進しているところでもあります。中でも宮っ子ステーション事業が充実しており、共働き家庭の小学生が安心して放課後を過ごせる子どもの家があります。また、放課後等に授業以外の体験活動ができる小学生の参加型で、地域の大人の参加協力を得て、学習やスポーツ活動を行い、地域社会の中で豊かな人間性を育むことを目的とした放課後子ども教室も開催されています。

一方では、中学生を対象とした取り組みの一つで、生徒自身が授業中等で質問ができなかった事を元教員や大学生、地域の有志が丁寧で且つ分かりやすく教え、加えて中学生の自主学習もサポートしています。

家や教室、学習塾でもないもう一つの学び場。自らの学習意欲をたかめ、自らが考える力を育み、自らが質問できる勇気を培うことができる場、第3の居場所、自分にとってのサードプレイスの一つとして、地域未来塾に取り組んでいるところであり、広く学校、地域に働きかけ、計画的に情報を発信し、誰ひとり取り残すことの無い教育に向けて、全校が実施できる様に更に取り組んでいきたいと考えます。

加えて、本市には魅力ある学校づくり地域協議会が各学校に設置されており、それらを全て担っていることから、魅力協の益々の発展とその重要性が更に求められると考えます。

今後においては、魅力協の組織力の元、市長事務部局を中心として教育委員会と連携し、三身一」で、子育てしやすいまち宇都宮、子育て支援の手厚いまち宇都宮、住みやすいまち宇都宮、そして、教育で選ばれるまち宇都宮を目標とし、より一層取り組んで参りたいと考えます。

山口委員

私からは宇都宮の給食の魅力について意見を述べさせていただきます。第4次宇都宮市食育推進計画の中に、基本理念すべての市民が生涯にわたり、自然に健康になれる食環境の中で、食に対する感謝と理解を深め、心身の健康と豊かな人間性を育みますとあります。

それぞれの世代に応じた取組の中で、学校給食は、生産者や食品の製造、販売業者と連携し、食に関わる人々への感謝と健全な食生活や食文化への理解を深めることで、心身の健康と豊かな人間性を育むことが出来る最高の場であり、宇都宮の給食の魅力を高めていくことは、教育で選ばれるまちの実現に向けても重要な取組だと感じております。

そのためには、地元農家や業者との連携による地元食材を使った地産地消の更なる推進や、本市文化財の活用や高等学校等との協力による体験型給食など新たな取組も考えていく必要があると思います。

例示になりますが、宇都宮の善願寺には大豆三粒の金仏という大仏がございます。これは、当時の住職が大仏建立を思い立ち、浄財を求めたがなかなか集まらず、困っていた時に、一夜の宿を貸した旅の僧から三粒の大

豆をもらった和尚は、これを増やして信者に分けながら利益を作り、資金を貯めて大仏建立を成就したと伝えられています。このような宇都宮の文化を知ることができる食材を活用した食育の取組も考えられると思います。

大豆の場合であれば、学校の敷地内もしくは近隣農家の畑またはプランターなどに児童が地元農家や保護者協力のもと大豆を育て、収穫し、調理専門学校や高校の食品科の学生に協力してもらい、例えばお味噌や大豆料理レシピを開発、コンクール参加などを体験し学校給食で食す。という一連の流れの導入は、児童にとって宇都宮の文化を学び、心と身体を育む、より良いワクワクする魅力ある給食に繋がることと思います。

教育効果として、食べ物の大切さを実感できる、農業への理解が深まる、宇都宮の文化を知る、持続可能な食と地域のつながりを学べる、ワクワクする体験は大人になっても記憶に残る。といったことが考えられます。

今申し上げた取組は、一つの例示になりますが、教育で選ばれるまちの実現のためには、こういった魅力ある給食の提供やその発信も欠かせない要素でありますので、微力ながらも実現できるよう取り組んでいきたいと思っています。

小堀教育長

私からは、全体的なことについて、話をさせていただきます。

私は大学の4年間を除き、60年ずっと宇都宮におり、素晴らしいまちだと感じています。教育委員会では「教育で選ばれるまち」を目指し、PRをどんどん進めていきたいと考えており、今年度の教育委員会の基本方針に位置付けたほか、プレゼンテーション資料を作り、夏に完成したところになります。

宇都宮の市民性として、宇都宮市のすばらしさを中々発信していかないという側面があります。教育委員会として、学校現場を含めすべての人にそのすばらしさがわかってもらえるよう、このプレゼンテーション資料を使って積極的にPRしていきたいと思っています。

また、教育企画課長から説明がありましたが、8月に市内のPTA会長や学校長が集まる会議において、このプレゼンテーション資料を使って宇都宮市の教育をPRしました。その時に、現場の職員や保護者の頑張りが無ければ、市のPRで終わってしまいますので、是非、現場でもがんばって欲しいと話をしました。今後は、現場においても教育で選ばれるまち宇都宮の推進を図って参りたいと思います。

佐藤市長

ありがとうございました。それでは私からも意見を発表させていただきます。

まず、大森委員から、本市教育の強み、特徴のお話がありました。

私は就任してから、教育長、教育委員の皆様と共に、西の京都、東の宇都宮と言われるよう、教育に力を入れてきました。

これからの子どもたちになるべく苦勞せず、そして教育環境が維持されるまちがスーパースマートシティです。その実現のためには人間力を高め

ていくことが必要なので、小中一貫教育・地域学校園の構築や市費による教員・司書・栄養士等の配置，食育の観点から地産地消や自校炊飯などを実施してきました。

人づくりの根幹である教育に力を入れてきた中で，その取組や成果が教育委員会でこのようにまとめられ，可視化されました。非常に分かりやすいですし，訴えやすいものであり，本当に良かったと思います。

今後は，大森委員のおっしゃるように，本市ならではの取組の充実や強化が不可欠であるため，新たな教育施策・事業の構築に一層取り組んでいただきたいと思います。

小野委員からは，本市には大きなアピールポイントがあり，どんどんPRをしていくべきという話や教育委員会だよりという年1回の市内向け広報媒体の活用では，まだまだ十分ではない，また，テレビCMなどの大規模プロモーションと合わせて，発信していくことで，東京圏をはじめとする子育て世代に強く訴求できる。という話がありました。

プロモーションについては，やはり知ってもらえないと，どれだけ良い取組をやっている意味がないと思います。本市に限らず，どこの行政もそこが苦手だと感じます。宇都宮市は先ほど教育長がおっしゃった市民性だけでなく，県民性もそうだと思います。良いことなのに黙っている人や他人から褒められたとしても，自虐的に話す人もいます。そうではなく，これからは，選んでもらうために積極的にプロモーションをかけていかななくてはいけないので，小野委員からの意見は本当に重要だと思います。

市長事務部局において，移住・定住者向けのイベントにおけるPRや都市ブランドプロモーションをやっているので，教育委員会と連携を取って，教育に関する内容をどんどん発信していければ良いと思います。また，PR資料の中に中核市の中でのALTの配置人数が3位といった数字が出ています。このような形で伝えれば分かりやすいですし，数字があれば，誰でもPRできると思います。数字は訴えかける力が高いので，こういった情報を活用しながら，都市ブランドと連携を図っていききたいと思います。

亀山委員からは，魅力ある学校づくり地域協議会の話がありました。

魅力ある学校づくり地域協議会は19年前，具体的には平成18年度に一部の学校で導入され，平成20年度には全校でスタートしました。各地域の実情も違い，国から言われて始まった事情もありますが，地域の皆様や学校と連携して宇都宮オリジナルのものを作りました。地域の皆様の協力をたくさんいただいております，先進的な取組だったと思います。

今年度のコミュニティスクールの試行的導入を通して，それぞれの良いところを生かして，より進化を遂げた魅力ある学校づくり地域協議会を作っていけると良いと思います。

教育で選ばれるまち宇都宮の実現に資するよう，引き続き，地域の方に支援をいただきながら，進めていきたいと思いますが，当然保護者の方々

や先生方にも本気で取り組んでいただく必要があると思います。

本市の教育環境は、地域の方々と共に作って来ましたが、最近、東京ではP T Aを外部委託し、企業にやってもらっている所もあると聞きます。しかし、保護者自身が本気で取り組まないと地域の方々も本気になっていただけないと思いますので、魅力ある学校づくり地域協議会を通じて、地域の皆様と連携を取って、御理解をいただきながら一緒に子どもたちの教育環境を作り上げていくことがこれからも必要だと思っています。

山口委員からは、文化財を活用した体験型給食のお話がありましたが、平成29年度歴史文化基本構想策定にあたって、調査した際には、3,800件にもものぼる歴史文化資源が整理され、改めて宇都宮市のポテンシャルの高さを感じたところであり、山口委員のおっしゃるような給食との連携も期待できると感じています。

給食がこれからも持続できるような環境を市長事務部局として、作り、守っていきたいと思います。

宇都宮市には全校栄養士が配置されており、子どもたちに必要な栄養がきちんと取れるようになっていきます。一方で、朝食を取らなかったり、夕食代を貰いコンビニで好きなものを買ったりするような子どもたちもあり、学校給食が唯一の栄養源の子もいます。そういった子どもたちを守っていくためにも、給食費の無償化はやるべきだと思います。ただし、国だけでもできませんし、市単独でもできないので、オールジャパンでやっていく必要があります。宇都宮市では、4月から月2,000円の補助を始めましたが、残りは国と県に負担いただき、国・県・市で進めていければ持続的に実施ができると考えています。

県民性については、過去、譜代大名が代わる代わる宇都宮を治めており、目立ったことをすると潰されかねないので、目立たず、なるべく喜んで帰ってもらうようにしていたからではないかと思います。そのため、新しいことをやるのは苦手で、皆がやってから、やり始めるといった県民性になっていったのではないかと感じます。

小野委員

宇都宮市は恵まれていると思います。宇都宮市では当たり前だが、他の場所ではそうでないことを知ってもらうことも重要だと思います。

大森委員

本市は資源も豊富で、非常に魅力的なまちだと思いますし、市外から宇都宮に来ると分かると思います。

県民性・市民性を踏まえると新しいものであるライトラインはよくできたなと思います。ライトラインにより世界が注目する都市になったと思います。

佐藤市長

大森委員のおっしゃる通り、国内だけでなく、世界からも視察に来ていただいています。ヨーロッパではL R Tはめずらしくないにも関わらず来

ていただいているのは、再生可能エネルギー100%で走っており、どのような仕組みでやっているのか興味があるようです。

それが知れ渡っているのはテレビ放映の影響が大きいです。また、餃子も宇都宮市の職員が総務省の統計調査で餃子の消費量が多いことを発見したことをきっかけにPRをはじめ、その後、タレントの山田邦子さんが毎週宇都宮と餃子をテレビで取り上げてくれ、餃子の像もたててくれたことが大きいです。

今後は、テレビだけでなく新聞やYouTubeなどあらゆる媒体を使っていく必要があると考えています。

小野委員

中核市という言葉は、あまりなじみがある言葉ではないので、政令指定都市も含めて、本市が優れている所をアピールしていくのも良いと思います。

佐藤市長

100万人以上の政令指定都市の方が国道の管理などが必要になり、財政的な余裕がない場合が多いため、本市を含めた中核市の方が財政的な余裕があり、魅力ある取組ができると思います。

また、地方で育てた子どもたちが三大都市圏、特に、東京の23区に人や企業が集まりすぎていると思います。元々地方の方なので、遠慮なく宇都宮市に来ていただけるようPRをしていきたいと思います。

大森委員から、体験格差の話がありましたが、昔は地域の大人が運営する子ども会で、保護者が仕事で忙しく旅行に行けない子を色々な所に連れて行ってくれたり、クリスマスパーティーを開催してくれたりしました。今は家庭の状況による格差が生じています。

大森委員

長期休暇明けは、夏休みどこか行ったかといった発言はしないよう、現場の先生も気を付けていると聞きます。

佐藤市長

家族と出かければ出かけるほど、その子は色々な経験を積むと聞きます。

亀山委員

そういった機会に恵まれている子とそうでない子との格差は実感しています。

佐藤市長

子ども会も自治会同様に加入者が減少していると聞きます。格差につながりかねないと感じており、なんとかできないかと思っています。

また、勉強ばかりでは、子どもも疲れてしまうと思います。体験の機会があれば、それに向けて頑張れたり、励みになったりすると思います。

小野委員

子ども自身の自信にもつながると思います。

佐藤市長

教育環境を提供するための準備で学校現場は大変だと思います。しかし、今はそれをやっていかないといけない時代になっています。

地域でも、子ども時代に地域から体験をさせてもらったことが無い人が増えていくと思います。そうすると、体験機会に関心を持たない人が増えていくことを懸念しています。

大森委員

山口委員の所では、農業に関心を持ってもらうために体験活動を実施していると聞きます。

山口委員

農業をやっている以上、就農体験の機会を作っていく必要があると思って実施しています。以前、小学校3年生の時に体験に来た方が、その後、学校の先生になり、生徒を連れて来てくれたこともあり、本人の記憶に残る体験を提供できたことを非常に嬉しく感じました。

学校という団体としてではなく、個人で来てくれる方もいます。昔、家族と一緒に来ており、結婚して子どもができたので連れてきたという方もいます。そういったサイクルが持続できると良いと思っています。

佐藤市長

山口委員の活動は教育という看板を掲げていなくても、内容として教育になっていると思います。

今後、日本の人口が減っていく中で、世界の人口は増えていくので、将来的に食料やエネルギーが不足する可能性があると思います。

そういった中で、ライトラインは再生可能エネルギー100%で電力を賄っており、一般家庭の太陽光も含まれますが、その普及などにより将来的に市のエネルギーを全て再生可能エネルギー賄っていくのが、スーパースマートシティにおける脱炭素社会になります。

そういったことを今のうちにやっておかないと、50年、100年先の人が困ると思います。やる気があっても税収が落ちた状態では、何もできなくなってしまいます。今、お金があるうちに環境を作っておけば、次の世代は苦労なくて済むと思います。

そのためには、国も地方自治体も稼げるようにならないといけません。企業には売り上げを伸ばし、雇用を安定させてもらい、人と企業から宇都宮市がもらった税収を市内に還元する、といった循環ができるようにすることで、宇都宮市が良くなっていくと思います。

佐藤市長

それでは、そろそろ時間となりますので、意見交換を終了したいと思います。本日皆様から頂いた意見を参考にさせていただきたいと思います。

また、教育委員会の皆様、宇都宮市の子ども達、これからの宇都宮市のため、引き続きお力を賜りますようお願いいたします。

(4) その他

佐藤市長

次にその他になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

皆様から特にないようですので、以上で会議を終了し、進行を事務局に戻します。

(5) 閉会

安納事務局長

市長、ありがとうございました。

以上で，令和7年度第1回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。
様々なご意見をいただきまして，ありがとうございました。